

LESSON PLAN

School : **** High School

Instructor : *****

Subject : English II

Date : *****

Class : 3A(20 boys & 20 girls)

Textbook : **** English Course II

Lesson : "Saving Native Tongues"

Aims of the Lesson : To be able to read the passages in the natural intonation and speed (as fast as the CD)

To understand the information and to grasp the main points by reading an essay about minor languages in English

To summarize the content of the text in their own words, using the key words

To be able to add information to nouns, using relative pronouns combined with prepositions (in which, for which, etc.)

To exchange and write down S's own opinions about preserving culture

Allotment : 1st period --- rapid reading i.e., to grasp the main points of the material. (This period.)

2nd period --- intensive reading, i.e., to understand new language elements and become familiar with them through tasks.

3rd period --- writing practice, i.e., to be familiar with the usage of relative pronouns combined with prepositions.(in which, for which, etc.)

4th period --- summary practice, i.e., to reproduce the English passage in their own words

opinion exchange and writing, i.e., to express S's own opinion about how to preserve minor cultures.

Aims of This Period : To be able to read the passages in the natural intonation and speed

-To read the sentences correctly (pronunciation and intonation)

To understand the information and grasp the main points by reading an essay about minor languages in English.

-To grasp the main points

-To answer the teacher's questions appropriately according to what SS read.

Teaching Aids : Worksheet (attached).

Teaching Procedure :

Stage	Time	TEACHER-- (T)	STUDENT(S)-- (S or SS)	NOTES	EVALUATION
Oral Introduction	5	T introduces the material orally: "What is your native tongue?" "Is it a major language or a minor language?" "Do you know any minor languages in Japan?" "Are they major languages somewhere? Where is Portuguese spoken?" etc. "How about Ainu? Is this a major language somewhere?" "That's right. There are languages that can disappear. Let's see what happens if a minor language dies."	S answers, "It's Japanese" etc. S says, "It's a major language." S answers the question. "Ainu, Korean, Portuguese, Tagalog, etc." S says, "It is spoken in Brazil." S says, "No, it isn't. It is spoken in Hokkaido, but	T asks questions, using the key words in the text. T writes "native tongue," "major," and "minor" on the board while asking questions. T writes the language names on the board when S answers. T shows the world map, and points at the countries. T writes "It is spoken in _____."	
1st Listening	5	T plays the CD. "Listen and put small circles above the stressed words. Underline the words that are	SS listen and check which words are more stressed. SS make sure which words	T stops the CD after each paragraph to make sure all students keep up.	

		difficult for you to pronounce.	require more attention for correct pronunciation.		
1st Reading	5	T reads the text a little slowly. "Now repeat the sentences after me."	SS reads after the T, and checks the pronunciation of difficult words.	T walks among SS to listen to pronunciation mistakes.	
Pair Reading	5	T tells SS to make pairs and take turns to read one sentence at a time. T tells SS to help each other with correct pronunciation. T tells them to change turns when they finish.	SS make pairs and read sentences in turn. SS make sure that their pronunciation is correct. Each pair reads the passage twice.	T tells SS to raise their hands if neither S knows the pronunciation.	B-To read the sentences correctly
2nd Reading (Read & Look Up)	5	T reads the text a little slowly. "Now look at the sentences when I read them, then look up and repeat the sentences." "Think about the meaning this time."	SS repeat each sentence after the T, without looking at the textbook.	T walks among SS to find the sentences that are difficult to reproduce. T repeats those sentences.	
Q&A about the main points	8	T asks Qs about the main idea. 1 "What is happening to minor languages?" 2 "Why are people trying to save their language?" T tells SS that they can talk about the main idea in Japanese.	SS discuss in pairs in Japanese.	T writes down the Qs on the blackboard.	
Sharing	5	Choose SS "***-san, what can you give for question No.1?" "***-san, what do you think about No.2?"	S answers the question. S answers the question.	SS can use Japanese. SS are expected to ask unknown words saying "What is **** in Japanese?" etc. T gives clues and encourages SS to find the answer themselves.	C- To grasp the main points through reading the text.
Conclusion	5	T repeat the main idea of the paragraphs.:	SS listen to the explanation		
	2	T explains about the next lesson. -"We will try to read the text in 4 minutes. Try to practice reading at home."	SS listen to the explanation.		

CRITERIA FOR EVALUATION

A : Interest, willingness and a positive attitude toward communicating in a foreign language

B : Ability to express oneself in a foreign language

C : Ability to understand a foreign language

D : Knowledge and understanding of language and culture

【家庭】「家庭基礎」

1 単元ごとの指導と評価の計画

科目名	家庭基礎		学科名	高等学校 普通科				
指導者			学年・組	第1学年1年3組(男子 名、女子 名)				
使用教科書	家庭基礎 (出版)		副教材	家庭科学習ノート(出版)				
単元名	(1)人の一生と家族・福祉		4)生活時間と労働					
単元の目標	生涯発達の見点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。							
指導観	<p>生徒のほとんどが進学希望であり、勉強と部活動に両立を目指して積極的に取り組もうとする生徒が多い。生徒の多くは恵まれた家庭環境にあり、弁当等の持参率はかなり高いが、家族の支援に依存している状況で、生活能力は低く、実体験が乏しい。そのため、ライフステージにおける自己の課題の把握をさせることが必要で、自分の生き方をワークシートを用いた学習を通して、具体的に考え課題がつかめるように配慮した。</p> <p>指導内容を精選し、学習のねらいに応じて考えを深め発展させるよう重点化した。事例研究・調査・調べ学習等ワークシートの学習内容については、年表作成やロールプレイングなど、生徒が興味・関心をもち、考えようという意欲がもてる題材を設定した。</p> <p>学習を進める中で、生徒の家庭状況を考慮し、家族内における理解と協力の下に、将来の社会を担っていく一員として、男女が共に支え合って家庭を築くことを前提に多様な生き方にも発展させ、自分らしいライフスタイルが形成できるように力の育成を図りたい。</p>							
学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体的評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
1)生涯発達と各ライフステージの特徴	・生涯発達の見点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、人の一生の営みとしての家庭生活の在り方を考えさせる。	・自立度チェックから現在の自分を見つめ、自立について考えを深める。 ・ライフステージごとの特徴と課題について整理し、家庭生活の在り方を考える。	3	自立度チェックにより自己を振り返り、ライフステージごとの自立と自分らしい生き方について考えようとしている。		自分の一生を年表作成等でみつめることができる。 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、生き方について考えたり、発表したりすることができる。	生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージの特徴と課題について理解している。	ワークシート 年表 ペーパーテスト
2)家庭の機能と家族	・現代の家族について、家庭の機能を理解し、家族構成や規模・人間関係等について家族の多様性と特徴を理解させる。	・現代の家族スタイルや家族に対するイメージについて話し合い、家庭の機能の変化や家族の特徴についての考えを深める。 ・家庭の機能が家族員相互の協力により果たされることを事例を通して理解する。	2	自分の家族や現代の家族の特徴、家族関係等に関心を持ち、家族の在り方や関わりについて考えようとしている。	親子関係や夫婦関係等家族関係のあり方について、資料による事例やロールプレイングをとおして考えを深めている。		現代の家族の特徴を理解し、家族・社会における家庭の機能について理解を深めている。	ワークシート
3)家族と法律	・家族の法律を理解し、制度としての家族について考えさせる。	・社会制度としての家族の法律について事例考察をする。 ・婚姻・夫婦・親子など家族に関する法律について調べ学習により理解を深める。	2		社会の変化に伴う、社会制度としての家族の在り方や社会とのかかわりについて考えを深めようとしている。	法律に関する具体的事例について、調べ学習をとおして考えを深め、意見をまとめることができる。	家族に関する法律について婚姻・夫婦・離婚・親子・扶養・相続等の法律を理解している。	ワークシート
4)生活時間と労働	・生活時間の配分と有効活用を通して、家庭生活や職業生活の在り方	・家族の生活時間調査を通して、各家庭の特徴や課題を理解し、家族員の家庭に	2	家族の生活時間調査を通して、生活時間の配分と有効	家事労働における性別役割分業など家庭での役割を見		生活時間の分類と特徴や職業労働と家事労働の意義や	ワークシート 生活時間調査

	について考えさせ、男女が相互に協力して、共に家庭生活の責任を果たし、人間らしい生き方をするための課題について考えさせる。	おける役割について考える。 ・家事労働と性別役割分業について資料より考察し、男女が協力して家庭生活をさせる労働について考えを深める。		活用に關心をもち、家族の役割と協力について考えようとしている。	直し、男女が共に家庭生活の責任を果たす生き方について考えを深めている。		特徴、現状と課題を理解している。
5) 生活設計	・社会の変化に伴った多様なライフスタイルを理解し、自分らしいライフスタイルについて考えさせる。	・結婚や家庭生活と職業生活の在り方について理想とする生き方や自分の将来像を考えることにより、自分らしいライフスタイルについて考える。	1			結婚観や職業観について自分らしいライフスタイルについて自己課題を認識してまとめたり、理想とするライフスタイルをイメージし、自分らしい生き方について考えたり、発表することができる。	ワークシート

2 学習指導案

本時の主題		4) 生活時間と労働 (8時間目 / 10時間)		
本時の目標		家族の生活時間調査をとおして、生活時間の配分と有効活用について關心を持たせ、家族員が家庭で担う役割や男女が協力して家庭生活を築くことの意義について考えさせる。		
	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 5分	生活時間の分類	1 生活時間の分類の確認をする。 1) 生活必需時間・睡眠・食事 2) 自由時間・余暇 3) 社会生活時間・仕事・勉強 家事・育児		・社会生活時間を仕事(勉強)時間と家事労働時間に分けることにより、家庭生活を支える労働についての理解を深める。
展開 40分	生活時間の調査	2 各自の家族の生活時間調査の結果をグラフに色分けして記入する。 予想(期待)される生徒の反応 ・自分以外の家族がどのように時間を使っているかを知らないことに気付く。 ・日によって生活時間が違う。 ・通勤・通学時間は労働時間に入る。	評価規準【關心・意欲・態度】 家族の生活時間調査を通して、生活時間の配分と有効活用に関心を持ち、家族の役割と協力について考えようとしている。 <評価方法> ワークシート Aの例 ・家庭状況に応じて生活時間の有効利用に関心を持ち、問題点に気づき、主体的な改善策を考えようとしている。 ・家族の家庭で担う役割について、生活時間のバランスを考慮して、家族が共に協力して家庭を支え	< Bを実現するための指導 > ・1日の生活時間の配分と活用が、人生の充実感や生きがいに影響することに気付かせる。 ・クラス調査から家庭によって時間配分や協体制、生活時間の有効活用の方法がいろいろあることに気付かせる。 ・健康と労働のバランスの分析をとおして、男女相互の立場を理解することにより、協力する姿勢が育つことに気付かせる。 < Cへの手だて >
	生活時間の特徴と考察	3 クラス全体の調査を行う。 ・挙手によりクラス全体の集計を行う。		
		4 生活時間調査結果を考察し、各自の家族の特徴を考え、まとめ、発表する 予想(期待)される生徒の反応 ・生活必需時間は家族による差が小さい。差が大きいのは家事時間である。 ・母親は働いているのに家事労働は母親が一人で担っており労働時間が長い。 ・父親は労働時間多く、自由時間が少ない。		

	<p>家族の生活時間の見直しと協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は家事労働がほとんど無い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 家族の健康と生活を支える家事労働の分担について、生活時間のバランスの面から各自の家庭について考える。</p> </div> <p>予想（期待）される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事労働は母親ばかりに頼るのではなく、一人一人ができることは協力する。 ・家族一人一人の余暇時間がもっと増えるように家事分担の能率化や協力が大切である。 ・家族でもっと支え合えるよう話し合うことが大切である。 	<p>ることの大切さがわかり、協力への具体策が検討できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考える視点についてアドバイスをする。 ・プリントの再提出
<p>まとめ 5分</p>	<p>生活時間のバランスを考えることが自分らしく生きる上で重要であることや、家事労働を家族員が共に支え合い協力して担うことの意義について確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員として、家庭全体を見渡して考えるよう促し、ホームプロジェクトに発展させるよう促した。 ・プリントの提出について指示する。 	

3 工夫している点

<ul style="list-style-type: none"> ・生活時間の分類で色分けをさせることが、時間のバランスを分量で確認できるようにした。 ・家庭に持ち帰って、家族員と協力について話し合い、さらにホームプロジェクトに繋げるようにした。

4 授業の課題と改善

--

【農業】「農業科学基礎」

教科・科目	農業・農業科学基礎		指導者		指導学級		科 年生	
授業日時	平成 年 月 日 (曜日) 第 時限		授業場所					
使用教科書	農業科学基礎 (実教出版)	補助教材	プリント・苗・育苗箱					
単 元	育 苗							
単元の指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よいたねもみを選ぶことができる。 ・たねもみの予措について理解する。 ・たねまきや育苗管理を確実に行うことができる。 							
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・おとなしくまじめなクラスで、物事を一生懸命考えようとする生徒も多く見られるが、全体的にやや積極性に欠ける。 ・自主的に取り組むことや問題を自分で解決しようとする習慣が身に付いていない。 							
指導計画 及び 評価計画	学 習 内 容	時間数	評 価 計 画 (具体の評価規準)					
	(1) 選種 (2) たねもみの予措 (3) 苗の育て方 (4) よい苗の条件	2 1 1 2 (本時1/2)	62 たねもみの構造に関心をもち、発芽の条件を考えようとしている。 63 たねもみの構造を調べ、その結果から、たねもみのよしあしが判断できる。 64 たねもみの構造が分かり、発芽の条件を理解している。 65 塩水選によるたねもみのよしあしの判断ができる。 66 たねもみの予措について理解し、その知識を身に付けている。 67 たねまきや苗作りに関心をもち、実習に意欲的に取り組もうとしている。 68 正しいたねまきや育苗管理を理解し、確実に行うことができる。 ⑨ 苗の観察から、苗のよしあしを判断する特徴を導き出すことができる。 ⑩ よい苗の条件から、苗作りのねらいが分かる。	a b d b d a c b d				
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よい苗の条件を理解し、よい苗と悪い苗を見分けることができる。 ・米作りにおいて苗のよしあしがその後の生育に大きく影響することを理解する。 							
	指導内容 [到達目標]	生徒の学習活動	学習進行過程	評価計画				
				具体の 評価 規準	評価方法			
導入 5分	前時の確認 本時の確認 〔よい苗の条件について学ぶことを確認する。〕	<ul style="list-style-type: none"> ・たねまきの方法を振り返る。 ・本時の学習内容を確認する。 ・たねまきを4つの条件 (20g・60g・120g・240g) で行った場合の発芽の仕方の違いを観察する。 	<p>【課題の設定】 よい苗の条件は何か？</p>					
展開 40分	①苗の観察 〔苗を観察する場合の視点を学ぶ。〕	<ul style="list-style-type: none"> ・4条件の苗を育苗箱からそれぞれ抜き取り、班ごとに観察・スケッチをする。 挙手発言① 苗の生育の違いを説明する。 ・観察結果を的確に伝える。 ・他の生徒の発言から観察の視点を学ぶ。 	<p>【課題解決の過程】 〈探究〉苗の生育の違いを考える。 発問①「各育苗箱の苗の違いは何か？」 ・実物を示しながら具体的に説明するよう指導する。</p> <p style="text-align: center;">⇓</p> <p>〈探究〉よい苗の特徴を考える。 発問②「どんな苗がよい苗か？」 ・苗の違いから、よい苗の特徴が導き出せるよう支援する。 ・班ごとに意見をまとめさせる。机間指導</p> <p style="text-align: center;">⇓</p> <p>発問③「導いたよい苗の特徴は、なぜ重要か？」 ・本田での活着に発展して考えることができたことを価値付ける。 〈理解〉茎が太くがっちりし、根の発達した苗は活着が良いことを理解する。</p> <p style="text-align: center;">⇓</p> <p>発問④「よい苗の条件に合った一番よい育苗箱はどれか？それはなぜか？」</p>	6 9	プリント			
	②よい苗の特徴 〔苗のよしあしを判断する特徴を導き出す。〕	<ul style="list-style-type: none"> 代表発表② 班ごとによい苗を選んだ理由を考え発表する。 ・よい苗は、草丈、根の状態、葉色等により判断できることを導き出す。 						
	③よい苗の条件 〔よい苗とはどのような苗か理解する。〕	<ul style="list-style-type: none"> 挙手発言③ よい苗のもつ特徴の重要性を説明する。 ・よい苗は、植え付け後、早く活着して成長を始める苗であることに気付く。 ・導いたよい苗の特徴から、よい苗の条件を整理する。 						
	④苗作りの重要性 〔苗作りの大切さを理解する。〕	<ul style="list-style-type: none"> 挙手発言④ よい苗の育苗箱を示して、その理由を説明する。 ・安定した収量をあげるには、よい苗を育てることが重要であると気付く。 ・「苗半作」と言われるほど育苗が重要であることを理解する。 		<p>【課題の解決】 風乾重が大きく充実度の高い苗は、茎に多くの養分を含み活着が早く成長も早い。したがって、太くがっちりした苗がよい米作りにつながる。</p>	7 0	プリント 定期考査		
まとめ 5分	本時のまとめ 〔よい苗の条件と苗作りの重要性について理解を深める。〕 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・よい苗の条件と苗作りの重要性について確認する。 ・次時までの課題を確認する。 	<p>【課題の設定】 よい苗を作るためには、どのような生育条件が必要か？</p>					

学習指導案

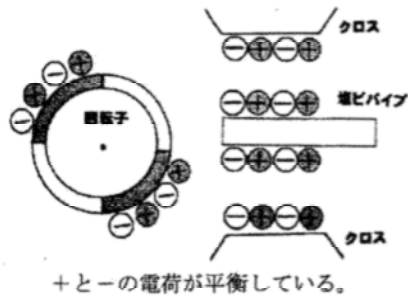
教科名	工業 電気科	指導者名	
科目名	電気基礎	実施日	
クラス名	1 E	使用教室	
教科書名	電気基礎 1	他の教材等	自作プリント
単元名	静電気	本時の位置	6 時間中の 2 時間目
本時の目標	静電気で作るモータ（フランクリンモータ）を自作することにより、静電気による現象の一つである静電力について理解を深める。		
過程	進行内容・ねらい	生徒の学習活動	指導と評価の観点等
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習 ・本時の課題説明（フランクリンモータを自作し静電力を確認する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・帯電、静電誘導について復習課題をワークシートに記入し、確認する。 ・静電気で作る力が得られることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容（帯電、静電誘導、帯電列）を理解しているか確認する。 D
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・フランクリンモータの製作 回転子の製作 送電線、接地線の製作 モータを完成させる。 ・モータの回転実験 ・回転原理の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・2名1組になり、プリントの手順にしたがい、モータを製作する。 ・プラスチックコップにアルミホイルを貼り、回転子を作る。 ・アルミホイルにより送電線、接地線を製作する。 ・製作した各パーツを触れるか触れないかの位置に配置する。 ・ナイロン製の布でストローを摩擦して帯電させ、装置に近づけ回転させる。 ・なぜ回転するのか、静電気に働く力を自ら考える。 ・回転の原理を、帯電、静電誘導、吸引力、電荷の移動、反発力から考え、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フランクリンモータの概要と製作の要点を説明する。 ・製作方法を理解しているかを確認する。 D ・机間巡視で意欲的に学習できているか確認する。 A、C ・モータが回転しているか確認し、うまく回らない場合の対処方法を助言する。 ・モータの回転原理が考えられるか確認する。 B ・回転原理を説明する。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをまとめる。 ・相互評価、自己評価を行う。 ・コンデンサの概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容が理解できたか確認する。 A、C ・次回の授業への興味を持たせる。

評価の観点：A（関心・意欲・態度）、B（思考・判断）、C（技能・表現）、D（知識・理解）

○ 静電力を確かめてみよう (フランクリンモータ)

フランクリンモータ (静電力モータ) の回転原理を考えよう。

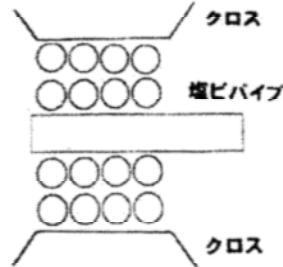
① 定常 (平衡) 状態



② 帯電

クロスと塩ビパイプを摩擦すると帯電します。

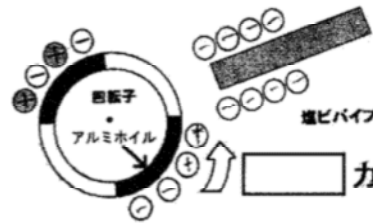
±、-を記入してください。



③ 静電誘導

() に帯電した塩ビパイプを回転子に近づけると、静電誘導によりアルミホイルの () 電荷が塩ビパイプ側に集まります。

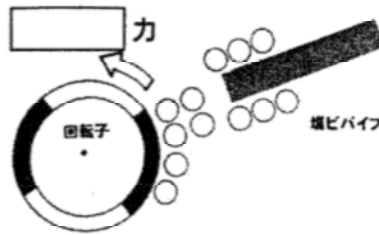
これにより、異極の帯電体が近づくため () 力が働き、矢印の方向に回転します。



④ 帯電

アルミホイルの () 電荷に向け、塩ビパイプの () 電荷が移動し、アルミホイルは () に帯電します。

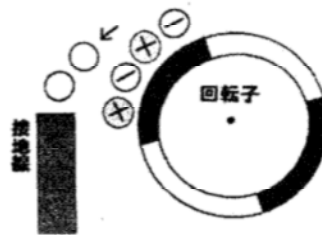
これにより、同極の帯電体が近づくため () 力が働き、矢印の方向に回転します。



⑤ 放電

回転子が接地線に近づくと、アルミホイルの () 電荷が接地線に移動 (放電) し、アルミホイルのプラス電荷とマイナス電荷は平衡し、はじめの状態に戻ります。

③~⑤を繰り返し回転子が回転します。



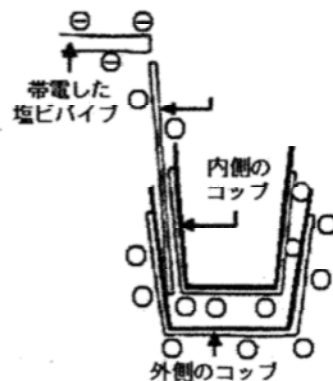
問1 回転方向はどのように決まるのだろう?

問2 台を発泡スチロールで作ったのはなぜ?

○ 静電気をためよう

電気コップ (ライデンビン) に静電気をためます。

問3 電荷の極性を考えてみよう。



【商業】

科目「ビジネス基礎」 小単元「流通活動と企業」の指導と評価の計画 例

小単元「流通活動と企業」の指導と評価の計画 (三次 企業活動とマーケティング 抜粋)

小単元名		小単元の評価規準				
3 流通活動と企業 (8時間)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
流通活動を円滑に行うために、企業は環境変化に対応した形態をとり、社内を組織してきたことについて理解する。また、一般的な企業の形態や組織の概要について理解するとともに、商品の流通に関連した諸活動であるマーケティングについても触れる。ビジネスシミュレーションソフトを利用し理解を深める。		流通の担い手である企業の形態や経営組織に関心をもち、実際の流通活動について、自らすすんで調べたり、まとめたりできる。	流通の担い手である企業の形態や経営組織のあり方について、様々な角度から主体的かつ客観的に考察するとともに、流通活動と企業の相互関係を考察できる。	流通の担い手である企業の形態や経営組織に関する様々な資料を適切に選択して活用し、実際の流通活動を客観的に把握するとともに、その過程や結果を具体的に説明することができる。	流通の担い手である企業の形態や経営組織とマーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、企業組織の概要を理解できる。	
授業の流れ		一次 流通の担い手である企業(3時間) 二次 企業の経営組織(2時間) 三次 企業活動とマーケティング(3時間)				
次	時	学習内容	学習活動における具体的評価規準および評価方法			
			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
3	1	・マーケティングとは何か理解する。	マーケティングとはどんな活動に関心をもち、意欲的にまとめることができる。 (行動観察)			
	2	・マーケティング活動の内容をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解する。		ビジネスシミュレーションソフトを通して、マーケティングの要素が、コンビニ経営に与える影響について考察できる。 (ワークシート)		マーケティング活動の内容にはどのような活動があるのか、ビジネスシミュレーションソフトを利用しその内容を理解できる。 (対話・ワークシート)
	3	・マーケティング管理をビジネスシミュレーションソフトを利用し理解する。			マーケティング管理とはどういうことか、ビジネスシミュレーションソフトを利用してわかることを説明できる。 (ノート)	

(学力向上プロジェクト事業 平成16年度商業授業改善等研究委員会より)
< 学習指導案 >

科 目	ビジネス基礎	単元名	第3章 ビジネスと流通活動 第3節 流通活動と企業
本時の主題	3 企業活動とマーケティング(マーケティング活動) (2時間目/3時)		
本時の目標	ビジネスシミュレーションソフトを通して、マーケティングの要素が、コンビニ経営に与える影響について考察できる。【思】 マーケティング活動内容にはどのような活動があるのか、ビジネスシミュレーションソフトを利用しその内容を理解できる。【知】		
過程	指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価
導 入 5分	・前時までの復習 ・市場調査の確認	・マーケティングの内容が理解できているか確認する。 ・コンビニの陳列調査がグループでできているか確認する。	・発問により確認する。 ・店長に確認する。
展 開 4.2分	・PC画面に従い、各グループ(1~5)の設定を行い、コンビニを開店させる。 <設定項目> 出店場所 開業資金 商品棚割 商品陳列 パート採用 販売促進 ・結果の発表をさせる。 ・グループ討議をさせる。 ・2日目の設定を行い、開店させる。	・「やってみ店長体験版」ソフトを利用し、各グループ(1~5)のコンビニの陳列調査に基づいて営業する。 <設定項目> 出店場所 開業資金 商品棚割 商品陳列 パート採用 販売促進 の設定を行い、開店する。 ・各グループの1日目の設定が終わり次第、開店させる。 ・結果を黒板のシートに記入する。 ・2日目についてはグループ会議を持ち、検討する。 Q: 1日目の結果で10店満点中、何点でしたか?自分のグループの良い点、悪い点はどこですか?その反省を元に2日目の設定をしてください ・各グループの2日目の設定が終わり次第、開店させる。 ・各グループの成績を発表する。 ・プロジェクターで表示する。 ・結果を黒板のシートに記入する。 ・コンビニの出店場所、商品棚割、商品陳列についてどのような点が重要で工夫がされているのかプリントにまとめ、店長が発表する。 Q: 「やってみ店長」を体験して、マーケティングの学習した部分でどんな点が重要だと思いましたか?	・PC、プロジェクターの用意をする。 ・グループの準備確認をする。 ・設定用ワークシートをグループの検討ができていないか、確認する。 ・店長や店員の役割として、指示どおり<設定項目>が設定できているか?(観察) ・各グループの設定時間を約5分以内で考える。 [評価] ・自分のグループの良い点、悪い点に気づけたか? <評価方法>(目標) ワークシート ・成績の良かったグループをプロジェクターで表示する。 ・どのグループの成績がよかったのか、何が良くて何がダメだったのかを中心に話し合う。 [評価] ・コンビニの出店場所等についてどんな点が重要なのか理解できているか。 <評価方法>(目標) ワークシート
ま と め 3分	・本時のまとめ	・「やってみ店長体験版」を通してコンビニのマーケティングを体験し、何が理解できたのか確認する。 ・感想を述べる。	[評価] ・コンビニエンスストアにおける販売計画、商品計画、販売促進を体験することで、マーケティングの内容を理解できたか? <評価方法>(目標) 対話、ワークシート ・発表が聞けているか。 ・プリントの回収

本学習指導案の実践事例は、学力向上プロジェクト事業平成16年度研究内容「ビジネスシミュレーションソフトを活用した授業展開例」に掲載されていますので、参考にしてください。

URL <http://www.gifu-net.ed.jp/kyoka/syogyo/13commerce/index.htm#h16>

【福祉】「社会福祉基礎」

1 単元ごとの指導と評価の計画

科目名	社会福祉基礎		学科名	高等学校 福祉科				
指導者			学年・組	第1学年1年 組 (男子 名、女子 名)				
使用教科書	人間の理解		副教材					
単元名	(1) 社会福祉の理念と意義							
単元の目標	生活と福祉、社会福祉の理念、人間の尊厳と自立を取り上げ、社会福祉の理念と意義について理解させる。							
指導観	福祉科の生徒は、将来、介護福祉士として社会福祉の担い手となることを目指している。そのためには、対象となる人間についての理解を深めることが必要である。生徒の多くが核家族の中で育ち、これまでに高齢者に関わる機会も少なかった。まずは、家庭生活の機能や概要の変化などを通して、人間の生活と社会との関わりを理解させ、人間の尊厳やノーマライゼーション、バリアフリーなどの理解とともに、支援の基本的な考え方を身に付けさせる必要がある。また、介護福祉士として仕事に就くことを踏まえて、どのような介護福祉士を目指すのか、そのためにはどのような高校生活を送ることが必要なかを考えさせ、職業意識を高めさせる一助としたい。							
学習内容	ねらい	学習活動	時間	学習活動における具体の評価規準				評価方法等
				関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
1) 生活と福祉	・家庭生活の機能や概要、人間の生活と社会との関わり及び少子高齢化の進行と介護の社会化の意義について理解させる。	・家庭生活の機能や概要について、世代による違いや変化を調べ、人間の生活と少子高齢化の進行について理解する。 世代ごとの家庭生活の年表作成 少子高齢社会の進行について調査結果発表	3	家庭生活の機能について、世代ごとの違いを考えようとしている。	世代ごとの家庭生活の在り方について考えることができる。 少子高齢社会の進行の原因について考えることができる。	世代ごとの家庭生活に関する年表を作成することができる。 少子高齢社会の進行と介護の社会との関連について理解している。	家庭や地域の機能・役割の変化について理解している。 少子高齢社会の進行と介護の社会との関連について理解している。	・年表 ・調査用紙 ・学習プリント
2) 社会福祉の理念	・社会福祉の在り方や意義について、関係法律や国際的な考え方などを取り上げ、自立生活支援へと変化したことについて理解させる。	・新聞記事などを活用して、近年の国際的な福祉の考え方を取り上げ、経済的救済中心から自立生活支援へと変化してきたことについて理解させる。 日本国憲法や社会福祉法の分析 近年の福祉の考え方について調査新聞記事等活用し自立支援の在り方について考察	3	社会福祉の在り方や支援についての社会の現状を知ろうとしている。 日本国憲法や社会福祉法を理解しようとしている。	我が国の社会保障と社会福祉制度が国民生活にどのように関連しているかを考えることができる。	近年の福祉の考え方の変化について、まとめることができる。 自立支援の具体的な内容や方法について説明できる。	近年、社会福祉の在り方や理念が変化し、経済的救済から自立支援に変化したことを理解している。	・新聞記事 ・学習プリント
3) 人間の尊厳と自立	・人間の尊厳と自立について、権利擁護の視点から具体的に理解させるとともに、サービス利用者の意志決定を尊重した自立支援の必要性について理解させる。	・人間の尊厳と自立について、具体的な事例を取り上げ、サービス利用者の潜在的能力の活用や意志決定を尊重した自立支援の必要性について考える。 日本国憲法や世界人権宣言を通して人権擁護について理解 自立支援の具体的事例の検討	5	具体的事例に対し、自立支援の方法について考えようとしている。	人間の尊厳と自立について、権利擁護の視点から考えることができる。 意志決定を尊重した自立支援の必要性について、具体的に考えることができる。	人間の尊厳や自立について、自分の言葉で説明することができる。 サービス利用者の意志決定を尊重したサービスや支援の方法をあげることができる。	権利擁護の視点から、日本国憲法や世界人権宣言、自立支援運動について理解している。 サービス利用者の意志決定を尊重した自立支援について理解している。	・課題 ・学習プリント

2 学習指導案

科目名	社会福祉基礎			
単元名	2) 社会福祉の理念			
本時の主題	自立支援運動による自立支援の在り方について(6時間目/11時)			
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、社会福祉の在り方や理念が変化し、経済的救済から自立支援に変化してきたことを理解している。【知識・理解】 ・自立支援の具体的な方法について説明できる。【技能・表現】 			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 8分	本時の目標	・新聞記事を読み、現代の社会福祉の問題点について考える。		前時の内容を振り返り、本時の内容を確認する。
展開 37分	これまでの社会福祉の現状	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 これまでの日本の社会福祉の具体的な支援について考える。</div> 予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人の意志に基づく支援でなく、サービス提供者の一方的な支援であったことに気が付く。 ・これまでの社会福祉の支援について、特に何も気づかない。 	評価規準【知識・理解】 近年、社会福祉の在り方や理念が変化し、経済的救済から自立支援に変化してきたことを理解している。 評価方法 ・学習プリント < Aの例 > ・新聞記事の内容から、これまでの日本の社会福祉の在り方との違いを具体的に考えている。	< Bを実現するための指導 > ・アメリカの自立支援運動が何に基づいて支援されているかに注目して考えさせる。 < Cへの手だて > ・今までの支援やサービスの提供において、個人の意志が反映されているかを考えさせる。
	自立支援運動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2 アメリカの自立支援運動について話し合う。</div> 予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の支援の在り方との違いがわかる。 ・利用者の意志が反映されていることに気が付く。 		
	社会福祉の意義の変化	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3 社会福祉の支援が、経済的救済から自立支援に変化した理由について考える。</div> 予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の理念の変化が、支援の在り方に影響して変化したことに気づく。 ・具体的な支援方法から、自立支援の在り方が理解できる。 		
	自立支援の在り方	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4 自立支援の在り方について、意見を交流する。</div> 予想される生徒の反応 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面を想定して、自立支援の在り方について説明できる。 ・自立支援の意味が理解できていない。 ・話し合いに参加できない。 		
まとめ 5分	本時のまとめ	・これからの社会福祉の理念や意義について考えをまとめる。		望ましい社会福祉の在り方について、具体的な場面を想定して考えさせる。

3 工夫している点

・アメリカの自立運動についてわかりやすい資料を提示した。

4 授業の課題と改善

小学部 第 学年 音楽科 学習指導案

日時	平成 年 月 日 () 第 校時	場所	小学部 年 組 教室
単元名	冬の歌で寒さをふきとばそう！	単元目標	音楽に合わせて、楽しく楽器を鳴らして、体を動かす。 楽器を使い、簡単なリズム打ちをすることを楽しむ。
単元設定の理由	<p>児童の実態から 全体的に、簡単な指示を理解して、落ち着いて行動できる子どもたちである。歌やダンスが好きな子が多く、音楽の授業に落ちついて取り組めるが、やりたい気持ちをなかなか伝えられない児童が多い。多くの楽器に触れてほしいと願っている。</p> <p>題材から 冬の歌を取り入れ、音楽の授業にも季節感を出すことで、四季をより強く感じることができる。また、冬の歌には体を動かして温かくなれる曲があり、気持ちの安定にもつながる。</p>		
本時の目標 4 / 5 (時間)	<p>音楽にあわせて、カスタネットを叩く。 友だちや教師の姿を見て、自分もやってみようとする。 音楽に合わせて、楽しく手や体を動かす。</p>		
指導内容	到達目標	予想される児童の活動 教師の働きかけ	具体的評価規準 (評価方法は観察)
導 入	はじまりの音楽を弾いて、授業のはじまりを知らせる。	曲を聴いたり、周りの様子を見て、授業のはじまりを知る。	活動に興味をもち、自分から参加しようとする。 (自分から椅子を持ってきたり、教室を覗いたりする。)
展	はじめのあいさつ	教師に注目して、表情や動作、ことばであいさつをする。	自分なりの方法で、授業のはじまりのあいさつをする。 (声を出したり、頭を下げるなどの動作をしたりする。)
開	楽器演奏 「おもちゃのチャチャチャ」	リズムを意識して楽しくカスタネットを叩く。	興味をもって、自分から手を伸ばしたり、覗き込んだりする。 言葉や声がよく出ている。
整	手遊び 「糸まき」	音楽に合わせて手遊びを楽しむ。	リズムカルにカスタネットを叩いたり、音楽に合わせて楽しく音を出したりする。
理	身体表現 「おしくらまんじゅう」	音楽に合わせて、友だちや教師と一緒に押し合いっこをすることを楽しむ。	言葉や声がよく出ている。 自分から前に出てきて、帽子などに触れようとする。
理	おわりのあいさつ	教師に注目して、表情や動作、言葉であいさつをする。	笑顔で両手をクルクル回したり、音楽に合わせて体を揺らしたり、跳ねたりする。 友だちや教師の動きをよく観て、真似をしようとする。 教師の呼びかけに、自分から手を挙げたり、声を出したりしてやりたい気持ちを伝える。
		<p>曲を聞いたり、周りの様子を見て、椅子を持って授業をする教室に集まる。 楽器や道具を用意しておき、すぐに授業が始めるようにしておく。 様子を見て言葉をかけたりして、教室に集まることできるようにする。</p> <p>教師に注目して、音楽に合わせて体を揺らしたり、表情やことばであいさつをする。 教師に注目するように言葉をかける。</p> <p>教師の持つ箱から、一つずつカスタネットを取る。 教師が前で鳴らしてみ、児童の興味を引き、自分から手を伸ばしたくなるようにする。 曲に合わせて、楽しくカスタネットを叩く。 リズムが意識できるように、前や横で教師と一緒に叩く。 叩くところが分かりやすいように、「せーの。」などの言葉をかける。</p> <p>終わったら、カスタネットを集める。</p> <p>次の活動に興味をもち、教師に注目する。 「今日も寒いね。」などの言葉をかけながら、帽子や手袋、マフラーを取り出し、どんどん着けていき、楽しい雰囲気盛り上げる。</p> <p>「糸まき」の手遊びをする。 精一杯できている児童には、その都度言葉をかける。 一人では難しい児童の、前や横で一緒に手遊びをして、真似をすることができるようにする。</p> <p>3～4人ずつ前を出て、手遊びをする。 「やりたい子。」と呼びかけ、手を挙げたり、声を出したりした児童から、3～4人を呼んで、帽子やマフラーを着けて、一緒に手遊びをする。 座っている児童にも言葉をかけて、一緒に楽しめるようにする。</p> <p>椅子を後ろに下げて、全員で円を作り、みんなで押し合いっこをする。 児童と児童の間に教師が入り、危険のないようにする。 危険のないように、下にマットをひく。 大きな声で歌を歌い、楽しい雰囲気作りをする。</p> <p>教師に注目して、音楽に合わせて体を揺らしたり、表情や言葉であいさつをする。 教師に注目するように言葉をかける。</p>	<p>言葉や声がよく出ている。 笑顔で夢中になって押し合いっこをする。 体が温かくなる。</p> <p>自分なりの方法で、授業のおわりのあいさつをする。 (声を出したり、頭を下げるなどの動作をしたりする。)</p>

高等部 生活単元学習指導案

1 単元名 「宿泊生活学習」～自立した生活をめざして～

2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

生活能力については、身辺自立の発達段階に比べ意志交換、集団参加、自己統制の到達度が低く、人との関わりや社会生活への参加に弱さが見られる生徒集団である。また、精神的にプレッシャーに弱い傾向も見られる。

家庭生活については、自分のことを自分で行ったり、家族の一員として家事を行ったりする意識がもてるようになってきた。しかし、家庭からの聞き取りによると、将来の自立した生活に向けて生活リズムを整えることに心がけたり、家事を積極的にこなしている生徒もいれば、意欲が続かず家事の手伝いが継続して行えていない生徒もいる。技能面でもまだ課題が見られる。

(2) 単元の意義から

本学級では、卒業後の生活で遭遇する様々な場面を想定し、課題を解決しようとする力の育成や経験の拡大をねらい、社会参加・自立に向けての取り組みを設定している。宿泊生活学習では、家庭生活の技能面だけではなく、基本的な生活習慣や集団生活のルール、協調性など、将来の家庭生活、職業生活で求められる課題を解決するための諸活動が多く含まれている。

本単元では、より実践的な力を育成するため、教師と共に学校に宿泊しながら、1日の生活の流れでの基本的な生活習慣（食事を整える、風呂、就寝・起床等）の指導や様々な家事をできるだけ一人で行う事をねらいたい。さらに、夏休みに向けて、家族と連携して自立した生活をめざした継続指導を行っていききたい。

3 単元の目標

- (1) 自立した生活に向け、基本的な生活習慣の向上や家事能力の実践力を高めることができる。
- (2) 集団生活を通して、状況を判断して行動する力、マナーや礼儀、適切なコミュニケーションについて体験的に学ぶとともに、課題を乗り越える力や社会性を身につける。
- (3) 宿泊生活学習を通して家族のありがたさや感謝の気持ちを持ち、日常生活においても積極的に家庭での役割をこなしていこうとする意識がもてる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<ul style="list-style-type: none">・課題を意識し意欲的に授業・宿泊生活学習に参加できる。・マナーを守ったり相手の立場に立ったりして生活やコミュニケーションをしようとする。・教師や友達からの評価を意識しようとする・今後の生活や自己のありかたについて課題を見つけようとする。・家族へ感謝の 気持ちを作文や言葉にして表すことができる。	<ul style="list-style-type: none">・依頼や質問を言葉づかいや礼儀を守って行うことができる。・状況を判断して自分の役割を見つれたり行動したりしようとする。・就業体験の評価と宿泊生活学習の評価を結びつけながら、今後の生活や自己の在り方についての課題を明らかにして発表できる。	<ul style="list-style-type: none">・集団生活におけるマナーやコミュニケーションの在り方について、体験しながら考えたり理解したりできる。・掃除の仕方や調理器具の使用方法を覚えたり、簡単な食事を準備したりできる。・家庭生活の力が職業生活の力に結びつくことが理解できる。・自立した生活に向け、基本的な生活習慣の確立が必要であることを理解することができる。

5 単元の指導計画（計22時間）

(1) 宿泊生活学習に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12時間

- ・ 宿泊生活学習の目的を知り、今後の見通しをもとう 1時間
- ・ 基本的生活習慣・家庭生活の力について振り返ろう 1時間
- ・ 安心して宿泊ができるよう準備をしよう 8時間（本時6 / 8）

学 習 テ ー マ

「食事が食べられるか心配...」

↓

「(せめて)朝ご飯を自分たちだけで作れるよう先生に相談しながら練習しよう！」

- ・ 朝食のメニューを決めよう。(1)
- ・ 宿泊生活学習のマイテーマを決めよう。(1)
- ・ 材料を購入し、先生と一緒に調理をしよう(2)
- ・ 校内の先生にみそ汁を試食してもらって感想を聞こう。(本時)
- ・ 朝食を整えよう。(2)

- ・ 宿泊生活に向けての最終確認（日程、持ち物、役割分担、注意事項）をしよう 2時間

(2) 自立した生活にむけて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10時間

- ・ 宿泊生活学習を振り返り、できたこと、もっとつけたい力を考えよう 2時間
- ・ お世話になった方や家族にお礼状を書こう 4時間
- ・ 就業体験の評価、宿泊生活学習の評価から就労に向け能力UPをめざそう 2時間
- ・ 最後の夏休み、どう過ごす？自立を意識し有意義に過ごそう 2時間

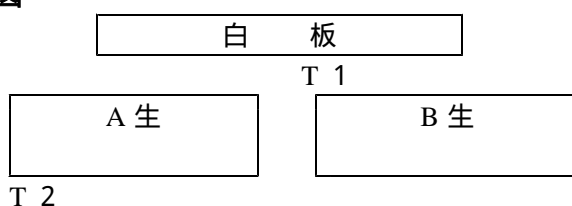
6 本時の目標及び個人目標

- (1) 相手の立場に立って伝えたいことを伝えたり、依頼や質問を言葉づかいや礼儀を守ってできる。
- (2) 状況や手順、目的を考えながら意欲的に調理や自己PRができる。
- (3) 感想や質問、アドバイスを参考に、次時での改善点を発表できる。

個人目標

生徒名	個 人 目 標
A 生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順を確認しながら、自分のやるべき事を見つけて積極的に取り組むことができる。 ・ アドバイスを聞き、次時に向けての課題をもつことができる。
B 生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順などを確認して意欲的に調理に取り組むことができる。 ・ 言葉づかい（特に敬語）に気をつけて尋ねる事ができる。 ・ アドバイスを聞いて課題や改善点を見つけることができる。

7 教室配置図



8 本時の展開

	学習の流れ	学習内容と予想される姿(・)及び具体的な支援()		具体的評価規準 (評価方法は観察)
		A生	B生	
導入 5分	あいさつをする。 前時までの学習を振り返る。 今日の課題の提示をする。	<p>当番の号令で始まりのあいさつをする。</p> <p>朝ご飯は自分たちだけで揃えられるよう、買い物に行ったり、スクランブルエッグやみそ汁の作り方、ご飯の炊き方を先生に教えてもらいながら作ったことを思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> うなずきながら聞く。 反応がない場合、学習ファイルを開くよう指示をする。 <p>今日の目標を提示する。</p> <p>よりよい挨拶や食事作りになるようアドバイスをもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> 礼儀ある態度や言葉遣いに気を付けながら、先生方にアドバイスをもらう。 		正しい身支度をしようとする。 前時の学習を思い出しながら聞く。 先生と一緒に目標を確認する。
展開 35分	今日の活動内容を理解する。 調理(みそ汁作り)をする。 完成したみそ汁を味見してもらう。 アドバイスを聞き課題を見つける。	<p>活動内容の説明を聞く。 ・みそ汁の作り方を理解する ・調理する際に気を付けることを理解する(包丁の使い方) ・調理して出来たみそ汁を先生に味見してもらう。 (礼儀や言葉づかい、態度に気を付けることを確認する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> どのようにするかを友達の様子やB紙を見て理解し、協力して行う。 次は何をしたらいかが分からないようであれば、友達と相談させたり、言葉がけをする。 安全面に十分に気を付けるようにアドバイスや声かけを行う。 <p>味見をしてもらうときの礼儀や態度、言葉づかいの確認をもう一度する</p> <ul style="list-style-type: none"> 見に来てくださっている先生のところに持っていき、味見してもらえるか言葉遣いに気を付けて聞く。 聞き方が分からないようであれば言葉がけをする。 <p>味見してもらった先生からアドバイスや評価を聞き、調理日誌をつける。</p> <p>よかった点、工夫するといいい点を板書し、要点を押さえる。</p> <p>協力して後片付けをする。</p>		<p>注目で聞く。</p> <p>使用する調理器具を思い出しながら準備する。</p> <p>作り方を見たり、確かめたりしながら調理する。</p> <p>包丁など安全に気をつけながら調理する。</p> <p>相手の顔を見て、落ち着いて聞く。</p> <p>アドバイスを聞きにいく。間違えても言い直すことができる。</p> <p>アドバイスや評価の言葉を覚えていて、書くことができる。</p> <p>先生と一緒によかった点や工夫するとよい点を見つける。</p>
まとめ 10分	課題を発表する。 次時の確認をする。	<p>まとめの調理実習の際、気を付けたいことや工夫したいこと、今日の成果を発表する。</p> <p>他の生徒の課題も自分の挨拶や調理の参考になることを伝える。</p> <p>明日、朝食作りの最後の練習をすることを理解する。</p> <p>当番の号令で終わりのあいさつをする。</p>		<p>調理日誌で確認して、発表する。</p> <p>おいしいと言ってもらえる朝食をつくらうと意識する。</p>